

第19回生涯学習センター運営協議会

〔日時〕2013年10月21日（月）15:00～17:00

〔場所〕生涯学習センター 学習室2

〔出席者〕※敬称略

委員：石川 清（会長）、岩本 陽児、押村 宙枝、川島 演、黒田 純子、佐合 昭浩、
菅谷 万里子、竹葉 かほる、辰巳 厚子、富川 尚子、中村 香、西原 要四郎、
柳沼 恵一
以上 13名

事務局：熊田センター長、外川担当課長、松田事業係長、村田担当係長、齊藤主任、小林主任、
丸山主事（記録）

〔欠席者〕天利 公一、小川 久江

〔傍聴人〕0人

〔資料〕・第19回生涯学習センター運営協議会レジュメ

・第18回生涯学習センター運営協議会 事業評価シート意見

・2013年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート 資料1～13

・2013年度生涯学習センター事業企画書兼事業評価シート 報告1～9

・センター長報告

<協議事項>

1. 生涯学習推進計画について

事務局：10月3日の生涯学習審議会へ前回の生涯学習センター運営協議会と同じ資料を提示し、議論していただいた。現在、修正作業をしている。大きな変更はない。再来月に原案を報告したいと考えている。

（意見・質問）

委員：43頁の施設利用要件の見直しについて、目標に利用要件の緩和とあるが、具体的にどんなことを念頭に置いているのか。

事務局：市民センター等では民間企業等についても、申込期限を遅くして市民が利用していないところを使っていただくような貸出をしている。生涯学習センターの利用率は8割程度であり、まだ2割の利用いただける余地がある。他の施設に比べると利用率は非常に高いが、空いているところがあるならば、より多くの方々に利用していただきたいと考えている。

委員：宗教や政治等の分野での緩和についてはどう考えているのか。

事務局：宗教や営利について、市民センターと生涯学習センターとでは役割が違うので、完全に同じ扱いにする必要はない。生涯学習という施設の面と、公民館としての社会教育の面とがあるので、両面から考え、見直しをかけていきたいと考えている。

委員：宗教や営利目的での利用は認められていないと思うが。

事務局：基本的には認めていない。

委員：例えば、宗教の勉強会や宗教の推進等は認められるのか。境目がわかり難い。

事務局：宗教や営利自体を目的としていると利用できない。判断し難いものはたくさんある。見直しの際に慎重に検討していきたいと考えている。

委員：神道と仏教の違いは何かといった勉強会をするのであれば、勉強という意味ではいいと思う。特定の宗派をPRするとなると微妙な感じを受ける。非常に判断が難しいと思う。

委員：5、6年前に、公民館事業で神社についての講座をしたことがある。町田は文化財の多い町である。生涯学習センターになってから歴史的な話をする講座はあまり実施していないように感じる。町田には文化財的なものがたくさんあるのに、そういったものを追いかけていくと必ず宗教の問題が出てきてしまう。営利を絡めているわけではないのに、宗教ということだけで選別されるのはいかがなものか。教育面から考えると、宗教をあまり外さないで欲しい。

- 会 長：神道史や神社建築史、宗教史は学問領域なので宗教の勧誘が絡まなければ何の問題もない。
- 事務局：行政として、どちらか一方の立場に立つことはできない。宗教活動や営利活動が決して悪いことではないので、市民がどう見るかというところである。非常に判断が難しい。
- 委 員：仏教の講座、宗教の講座はあってもいいと思う。
- 事務局：宗教の勉強会は様々なグループで行われているので、そこは問題ないと思う。会員を勧誘する行為になるとここでは認められない。営利についても同じである。その見極めをきちんする必要はある。事業で行う際は、勉強なのかそうでないのかのしきりがきちんと出来ているが、一般の方の活動になると、われわれにも見えないところがある。ただ、そういう話を聞いたときにはそのグループから事情聴取をして、できないことははっきり伝えている。はじめをつけることが大事だと思う。
- 委 員：64頁の先進事例の研究について、非常に魅力的で、将来楽しみがあると思う。大学のゼミとの合同研究の実施はハードルが高いと感じるが、どのような取り組みを考えているのか。
- 事務局：大学のゼミにはそれぞれ専門があるので、そういうものを活かしたい。また、生涯学習センターは若い方の利用があまりないという現実があるので、大学生の若い感性でこの活用方法を考えていただきたいということもある。生涯学習や社会教育を選考しているところに限らず、市民ニーズを把握する、さまざまなデータを解析して、市民の行動等を研究しているところがあれば、そういうところとも一緒にやっていきたい。
- 委 員：実施事業でいくつか再掲されているものがあるが、記載内容が全く同じである。目的が2つあってそれぞれで掲載されていると思うが、その場合、評価する指標は変わっていくはずである。目的にあった指標をそれぞれ設定する必要がある。例えば、13頁の収集した学習情報の活用について、34頁にも再掲されている。34頁の目的と指標は妥当だと思うが、13頁では違うと思う。学習情報の収集件数ではないか。同じことが、14頁及び29頁のNAVI事業にも言える。29頁は学習機会の充実という目的であるので、記事の掲載件数等を指標にするほうがいいと思う。再掲については、見直したほうがいいと思う。
- 事務局：検討したいと思う。
- 委 員：再掲については同意見である。特に、取り組みの大枠の中で全く同じだった。何か違う点があるならば再掲の必要性があると思うが、全く同じならば再掲する必要はないと思う。再掲の事業は、どこで重複するのかを記載すると関連性が見えてわかりやすくなると思う。24頁の幼児・青少年対象事業について、指標が年間延べ参加者数になっている。生涯学習センターや文学館等で行う無料の出入りが自由な展示の参加者数をどう把握するのか。展示を見にきているのか、全く違う用事で来ているのか、分かりづらいと思う。どのように把握し、目標値を定めるのか再考したほうがいいと思う。47頁のボランティアバンクについて、ボランティアセンター等との登録者の重複はどう考えているのか。73頁の文化資源の魅力の発信について、指標を「来場者の中で市外の方が占める比率」とされているが、なぜ市外の方なのか。まずは市民の方に知っていただくことが一番である。
- 事務局：再掲については他の課と合わせて検討させていただく。幼児・青少年対象事業の指標について、指標が回数だったり、参加者数だったりさまざまである。分かりにくいので、なるべく統一したい。全てのデータをあげて、両方を出すのか、どちらかにするのか、調整したいと思う。人数を把握できない事業もあるので、それらは別の指標にする等対応したいと思う。ボランティアバンクについて、学校支援センター、ボランティアセンター、生涯学習センターと3つの施設で人材バンク制度がある。その他、民間やNPO法人でも行われている。図書館においても、お話ボランティアがいる。それらの人材データを突合できる仕組みができるといいと考えている。個人情報等の絡みもあるので、統合できるような仕組みを中期的に考えていければと思っている。徐々にステップアップしていきたい。文化財の指標について、内部の検討委員会でも同様の議論があった。市内の人に拡げることが大前提であり、市外の方をどう増やしていくのか、比率ではなく、単純にそういうことを載せたほうがいいのではないかと考えている。

2. 2014年度生涯学習センター事業について

事務局：ことぶき大学について、今年度は「世界遺産」、「暮らしと経済」を見直し、「芸術鑑賞」、「暮らしに関するもの」を考えていきたいと思っている。定員はホールを利用し、今年度とほぼ同じ規模の講座を考えている。

事務局：ことぶき大学は、今年度から会場をホールにし、定員を増やした。定員の少ない講座は競争率が10倍以上になってしまうので、そういう講座はやめて、ホールでできる講座づくりをしている。講座を前期と後期に分け、後期については6、7月に募集をする方法に変えたいと思っている。

事務局：市民大学について、分野はあまり変わらない。健康学について、ことぶき大学にも健康コースがあり、参加者も同じような方が来ている。次年度は対象を60歳未満の方にしたいと考えている。国際学について、今年度は前期、後期で行ってきたが、次年度は後期を法律に関する講座に変えたい。新しいことにチャレンジしたい。身近な法律について考えるということで検討をしていきたい。

会長：法学は国際学のプログラム委員の議論の中で生まれたのか。

事務局：センターの中の提案である。国際学のプログラム委員と法律関係の方にプログラムを考えていただく。

委員：法学は職員が企画するのか。

事務局：企画はプログラム委員にお願いする予定である。

3. 2013年度生涯学習センター事業の企画について

(1) サタデーコンサート「ニューイヤーコンサート」(資料1)について説明。

(意見・質問)

特になし

(2) 生涯学習ボランティアバンク研修会及びPRイベント(資料2)について説明。

(意見・質問)

委員：前回は行った1日体験講座の目的は、一般の人たちに知ってもらい、その人たちにもボランティア活動をしてもらおうということだったが、今回はどう考えているのか。目的は前回と同じか。

事務局：1日体験講座の目的は前回と同様、制度を知ってもらうことである。

委員：生涯学習ボランティアバンクを作っても、実際に利用されていない市町村はたくさんある。利用者側からボランティアを利用したいという気持ちにならないと声がなかなかかからない。どういう価値があれば、町田市の人たちが生涯学習ボランティアに教えてもらいたいと思うのか、マーケティングをみんなで考える必要がある。また、市民活動にも学校支援ボランティアにも同じことが言えるが、町や生活の課題を解決することに結びつかないと、なかなかボランティアバンクを利用されない。問題を解決するからこそボランティアに頼みたいという気持ちが起きる。生涯学習ボランティア登録者には、趣味的なスキルを持っている人から、女性の再就職を支援すると人、メイクを教える人と様々いる。どの分野の人も町の課題と接点がないと利用されにくい。その接点をどう見つけていくかを今回の研修でやっていきたいと考えている。

委員：現在、様々なサークルの人たちが小学生を対象に、あるいは福祉施設に行きボランティアをされている。全ては個人的なネットワークで動いている。28日に学校支援センターの方たちの研修会があるので、ここのボランティアバンクのリストを持っていき、宣伝したいと思う。学校支援センターから派遣されているボランティアは100名近くいる。その人たちはあまりボランティアバンクを理解されていない。ボランティアバンク自体のPRをしなければならないと思う。生涯学習センターが窓口になるとどうしても時間がかかってしまう。どうスピードアップしていくのかを考える必要がある。どのような対策をされているのか。

委員：市民にとって、学校ボランティアに登録しよう、生涯学習ボランティアに登録しようと同じであり、最終的な目標は自分たちで町田をよくしていこうということである。私は登録が重複していてもいいと思う。みんなで取り合う必要はない。むしろ、その人たちが集まっ

て協力できればパワーアップしたものができるとはではないか。研修では、みんなが集まればもっといいものができるとことを体感できるワークショップにしたいと考えている。

委員：前回行われた1日体験講座に参加した方が「自分たちは生涯学習センターに登録したが、自分たちの持っているスキルを一般の人たちに教えることによって、その一般の人たちがボランティアとして動けるのかということに疑問に思う。」と言っていた。そういうことをするならば研修には参加したくないという人もいる。

委員：研修の意図はよくわかった。必要な講座だろうと思う。登録者だけを対象にするのではなく、これからボランティアをしたいと思っている人に対しても、意欲を掻き立てる意味で参加できるようなシステムにしていればより広がっていくと思う。

事務局：ボランティア登録者だけではなく、これからやってみたい方、一般の聞きたい方も自由に参加できる。

委員：ボランティアバンクって何か、できるのなら私もやってみたいという方もいるかもしれないので、そういう方に講座を受けてもらえれば登録していただけるかもしれない。

委員：1日体験講座に参加するためにはスキルアップ講座を受けることが必要なのか。スキルアップした方たちがやるのか、前回と同様、参加したい方がやるのか。ボランティアの人を市民に届けるという目線も必要だが、市民がボランティアの人たちに到達するという目線も必要だと思う。この1日体験講座は、市民が「こんなことを教えてくれる人がいるんだ」ということを体験する1日でもある。町田市のボランティアを活用しよう研修会もあっていいと思う。町田市には何種類ものボランティアバンクがあって、これだけ教えてくれる人がいるということをもっと知ってもらおう研修会という視点もありではないか。今後の展開としてお願いしたいのは、登録用紙に「あなたの情報を学校支援センターと共有していいですか」「ボランティアセンターと共有していいですか」と一文をいれていただいて、そこに丸がついていたら他の人材バンクにも自動的に情報が流れるようにしていればと思う。何か所にもいかなければいけないのは利用する側にも登録する側にも使いにくい。市役所の中でももう少し調整・連携をしていただいて、使いやすいものにしてもらいたい。

事務局：スキルアップ講座は必修ではない。研修に参加していなくても1日体験講座には参加できる。

(3) 学生活動報告会「私にもできる！東日本大震災ボランティア」(資料3)について説明。

(意見・質問)

会長：参加は自由か。

事務局：自由である。

(4) 昭和薬科大学共催講座「脳と病気(仮)」(資料13)について明。

(意見・質問)

委員：これは「脳の病気」ではなく、「脳と病気」なのか。

事務局：「脳と病気」である。

委員：脳に関わりのある全身の病気ということか。

事務局：そうである。詳細はこれからつめていく。

4. 事業評価について

→ 担当：資料4は中村委員、資料5は菅谷委員、資料6は辰巳委員、資料7は竹葉委員、資料8は黒田委員、資料9は佐合委員、資料10は西原委員、資料11は岩本委員、資料12は柳沼委員。

(1) 平和祈念展(資料4～資料10)について説明。

(意見・質問)

委員：資料9について、前年度評価を受けて、時間やテーマ等の改善をしているが、今回はどうだった

たのか。あまり印象はよくないのか。担当者所見の改善点の中で「内容ともに新たな企画を考えたい」と記載されているが、どういう意味か。全く違う企画にするのか、もっと工夫するというのか。

事務局：山田氏に次回もということにはなっていない。ただ、講演を聞かれた方の感想はとても良く、評判は非常に良かった。

委員：来年なくなると寂しい気がする。

委員：聴講者からの評判はとても良かったと聞いている。ユーモアを交えた講演で、山田氏はとても素晴らしいという個人評価も受けている。

委員：山田氏の講演はとても良かった。PRをして、もっと大勢の方に聞いていただきたい。聞きたい方は大勢いると思う。

委員：この平和祈念展の中で戦争の悲惨さという部分だけが取り上げられているが、たまたま先日あるところで講演会があって、そのときに歴史的な事実と事象の中での日本の経済状態がどうだとか、歴史って戦争という中での日本の経済ってどうだったのかなという発想の講演会だった。おもしろい見方だなと思った。歴史にまつわる中での日本の経済状況がどういうものであったのかを取り入れていただけるとよりバラエティ性がうまれてくると思う。

(2)生涯学習センター子どもフェア「あそべ!あそべ!あそべ!2013夏」(資料11)について説明。

(意見・質問)

委員：異常気象もあって人出が鈍っていたような感じを受ける。500名と来場者数が少なかったことに対して、あまり悲観する必要はないと思う。

会長：前年度の来場者はどのくらいか。

事務局：1500名だった。今回は市の防災訓練や、他の施設の催し物とも重なってしまったことも来場者が減った大きな要因だと思う。昨年はヨーヨーやかき氷等の露店があったので、それがなくなったことも影響しているのではないかと思っている。

委員：大学生や国体のゆりーとたちが協力してくれたことに感謝している。決して悪い結果ではなかったと思う。

委員：夏休みの最後の日曜日の開催は変えられないのか。今回、7月20日に配る校内のお手紙にこの事業のことを掲載した。夏休みに入ってすぐであれば効果があると思う。8月末に実施するものを学校で広報をすることは難しい。

事務局：開催時期については検討している。夏休み初めは出かけてしまう方が多く、参加していただけないのではないかと、夏休み後半であれば家にいる方も多くなるのではと考えた。夏休み入った直後がよければ、変更したいと思う。

事務局：林間学校とは重ならないのか。

委員：林間学校は7月にある。子どもが出て来やすいのは7月から8月初めにかけて。お盆前後は出かける家族が多い。8月末に夏休みの宿題としてできるものを企画すれば子どもは参加すると思う。

事務局：日付をいつにすればいいのか、こちらでも見えにくい。もしいい時期があれば参考に教えていただきたい。

委員：林間学校は毎年変わる。午前中はプールがあるので、参加するのは難しい。7月中にチラシをいただければ学校でも配布することはできる。PRのしかた次第だと思う。

委員：平日はプール開放がある。小学校によってさまざまであるので、例えば、来やすいこの周辺の小学校を調査して、他の行事とかぶらない時期に開催するのであればいいと思う。平日は行事があるので、やるとすれば日曜日だと思う。それを7月にするのか、8月下旬にするのか、後半になると申し込んでいても忘れてしまうことがある。

委員：かき氷やヨーヨー等、学びにつながりにくいものは省いたということだが、かき氷や綿菓子も縁日だと大変な人気である。そういうものがあってもいいと思う。

委員：あったら嬉しいものだが、綿あめ目当てに来ることはあまりないと思う。

委員：学びだけではなく、一つでもそういうものがあればそれなりの集客効果はあると思う。

委員：下の道路でPRはできないのか。せめて1階で大きなポスターを貼る等して、上でイベントを

開催していることを周知できるといいと思う。買い物ついでに寄ることもあると思う。

事務局：1階で呼び込みはしていた。道路上ではできない。

委員：生涯学習センターは通りがかりで寄れる雰囲気のある場所ではないので、それがとても残念だと思う。

事務局：昨年の「まちコレ」では下にモニターをおいて宣伝をした。上で何がやっているのかが見られると寄っていただけだと思う。

委員：子どもフェアの内容が決まったら、詳しいチラシを直前に配布していただいたほうがいいと思う。それを何回かやっていくことで根付いていくと思う。来年を楽しみにする子どもが出てくれば、参加者も徐々に増えてくると思う。

(3) サタデーコンサート「チェロとピアノの演奏会」(資料12)について説明

委員：第1曲目がバッハの無伴奏の曲であったが、演奏途中で職員の方がお客さんを席に入れていた。その人が持っていたビニール袋の音がうるさかった。マナーを呼び掛けているので、職員の方にも演奏中に人を席にいれない等、マナーを守っていただきたい。

5. その他

特になし

<報告事項>

1. 事業評価の最終報告

事務局：12事業について評価した。いずれもB評価である。それぞれの課題があるので、その課題を的確に把握し、次年度の事業に繋げていきたいと考えている。市民大学については、今までどおりのやり方だけではなく、違った視点の内容にしていきたいと思う。

2. センター長報告

(1) 教育委員会について

10月4日に開催された。生涯学習センターまつりの開催について報告した。次回は11月1日に開催を予定している。生涯学習センターまつりの結果報告を予定している。

(2) 市議会について

11月28日から12月20日まで12月議会がある。一般質問は12月3日から5日間行われる。

(3) センタービル管理について

利用者から8階の非常階段をあけてほしいとの要望があり、センタービルと協議している。非常階段は2か所あり、1か所をあけて6、7階へ行けるようにしたいと思っている。しかし、6階より下にも行けるようにすると、防犯上良くないことから、ビルの途中にベルを鳴らす装置をおき、誰かが入ってきたときに警報が鳴るしかけをしたいと思っている。6、7階の第1階段について、利用時間中は開場しているが、現在壊れている。本日消防署の立ち入り検査があり、修理するよう指導を受けた。至急修理したい。

(4) 生涯学習推進計画について

31日に教育長へ報告をする。今後、市民意見を聞きながら今年度中に策定する。

(5) 今後の予定について

24日に都公連の館長部会が開催される。課題は2年後の東京大会開催についてである。25日から27日に生涯学習センターまつりを開催する。11月9日、10日に青年学級土曜学級の合宿を大地沢青少年センターで行う。11月10日に原町田大通りを通行止めにして、「キラリまちだ」が開催される。これは従来の農業祭と産業祭を一緒にしたお祭りである。センター前の道路は使用

できないため、土曜学級は本庁舎で解散することになる。11月13日にセンタービル全体での防災訓練を行う。現在、文学館において赤川次郎展を開催しており、生涯学習センターで割引券を配布している。12月23日までの開催となる。

3. 東京都公民館連絡協議会の活動について

【委員部会】

委員：10月10日に第6回委員部会が開催された。議題は第2回研修会について。開催日は12月1日（日）14時から16時まで、会場は西東京市の柳沢公民館である。テーマは「三多摩の公民館の今日的課題」、副題は「公民館は誰にとって本当に必要か」。講師は福生市の元公民館館長の伊東静一氏。会議では副題について議論された。本当に必要かという意味合いと、この時代でもっとも必要としているのはどういう人なのかに焦点をあてて、いろいろな活動に力を入れる必要があるという思いでこのタイトルになったが、聞き方によっては否定的に捉えられてしまうこともある。最終的には講師に確認をする。第3回について、2月または3月の日曜日の午後を予定している。講師は首都大学東京の荒井氏、「厳しい財政状況の中での公民館運営」を予定している。

4. その他

委員：和光大学より、鶴川駅前の緑の交流館において、金曜日の18時半から連続講座「現代の神話と伝説」を開催している。

次回の生涯学習センター運営協議会開催日について

12月17日（火）午前10時から12時 学習室2